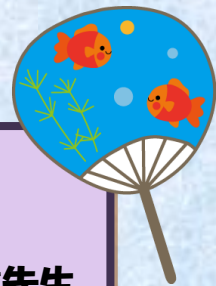


夏季特別学習会報告



東京家政大学人文学部コミュニケーション学科教授 太田洋先生
講演 「生徒の意欲と力を育てるフィードバックのあり方
～スピーキングとライティング活動～」

南筑後外国語（英語）科教育サークル

会長 柳川市立三橋中学校 校長 境 宏文

日時：2016年7月30日（土） 13:30～16:30

場所：柳川市立三橋公民館

講師：太田洋先生（東京家政大学人文学部コミュニケーション学科教授）

本サークルでは、夏季特別学習会といたしまして、7月30日（土）柳川市三橋公民館において、東京より太田洋先生をお迎えし、小中高45名の先生方と一緒に学習することができました。

授業や活動の最後のフィードバックはもちろん、活動最中に行うフィードバックについて、理論的なことから様々な手立てについて、大変わかりやすく、納得しながら先生のお話を聞くことができました。

暑い中、遠方からも参加していただきありがとうございました。

（文責 田中、古川）

◆力をつけるスピーキング、ライティング活動の設定の仕方 & 活動をする際のフィードバックのあり方



- 2種類のアウトプット活動（writing / speaking）
 - ・新出文法事項を使ってアウトプット（interactional 活動）
 - ・既習した内容を総動員してアウトプット（タスク達成）

活動を実施することが第一歩。でも、やっているだけでは力はつかない。やらせっぱなしにしない。

ここで大切なのが... feedback!!

アウトプット活動をしたら、それでOKではなく、常にfeedbackして子どもに返していくことが、子どもの伸びにつながる。

活動後のfeedbackで留意すべきは、「活動のねらい」「評価の視点」を明らかにしておくこと。

活動の自由度が高い活動ほど間違いを起こすので、何についてのfeedbackをしていくか考えておく。

- 2種類のフィードバック
 - ・肯定証拠（いい生徒作品、複数のいいモデル）
 - ・否定証拠（corrective feedback）

Errorに気付かせることによって子どもの理解状態がわかる

○oral feedback

- ・“Which do you like better, A or B?” の問いに“both”と答えた生徒に賞賛“fantastic!”
- ・すぐに生徒の間違いを正すのではなく、“Close! Close!”と言って、生徒自身で気付かせる。
- ・いいミス（Try out!）だね!と言って、正しい表現をペア等で話し合わせる。

○corrective feedback

- ・recasts・・・間違いを正しく言い直して、その間違いを生徒に気付かせる。
- ・prompts・・・ clarification requests, elicitation, repetition of error

自分のfeedbackのやり方はどうか？
自分のくせを分析しよう。
うまい先生はバリエーション豊富!

○written feedback

- ・concept map 本文の内容を図式化する活動
そして、図式化したものを基にoutput (retelling)
- ・feedbackには効果があるものとないものがある。
だからこそ、各活動の評価基準を明確にしておく必要がある。
日本人母語話者による英語の文法形態素習得困難度（Shirahata1988）

言語習得に大切なもの
☆input ★output
アウトプット活動を通して
try out ⇔ feedback

Feedback ⇔ また使う機会



参加者のアンケートから



今日、太田先生の講演会に参加させていただき、本当に良かったです。十分に input させてから output 活動させることは日頃から意識して取り組んでいたのですが、今日のお話を聞き、feedback が十分にできていなかったことに気付くことができました。Feedback の仕方次第で子どものやる気、英語力をともに伸ばせることができると思いました。oral feedback は、生徒の実態に合わせて、Recast や Prompts を使っていこうと思わずし、written feedback についても本当に勉強になりました。Feedback については、詳しく学習したことがなかったので、とても勉強になりました。新学期がとても楽しみにになりました。
(筑前町立中学校)

日々の授業での生徒の学びを深めるための方法を教えていただき、すぐに実践していけそうです。

本文読解における concept map の効果には驚きました。訳をせずとも、本文を読み取り、理解を深め、writing に発展させていけるのが素晴らしいと思います。早速、2学期から取り入れてみます。英作文の feedback の方法も示していただき、大変参考になりました。
(宇美町立中学校)

今回の講演を聞いて、思ったのは、自分の「生徒を観察する目」「feedback を与えるための活動の設定」が全然できていなかったということです。Feedback でこそ、生徒の accuracy、fluency、そして意欲を高めていけるということを教えていただいたので、できる限り実践していきたいです。生徒の英語力が伸びる環境を作っていきたい。
(八女市立中学校)

Feedback の種類、方法を具体的に知ることができて、大変勉強になった。Speaking に関して、自分がいつもどうしていたかも振り返り、2学期から意識しているようなバリエーションを試してみたいと思った。Writing の feedback も全てを訂正するのは効果があるのか？と疑問に思いながら、時間もかかるし・・・と悩んでいたが、今日は、一つの項目に絞って・・・など、具体的に今後につなげる方法を示していただき、ありがたかった。Concept map の使い方もいろいろ示していただいたので、早速やってみたいと思う。Try Out! という言葉を2学期から大いに使っていききたい。
(熊本市立中学校)

日々の授業の中で、なかなか効果があらわれたいのは、ここに原因があったんだ！と救われた気分になったというのが正直な気持ちです。それと同時に、では、どうしていけばいいの？に対する具体的なヒントをたくさん学ぶことができました。

これまで自分使っていた「ミスしてもいいんだよ」という言葉を「Try Out してみないかい？」に変えて、前向きに授業していこうと思います。Feedback についてももっと知りたいです。
(八女市立中学校)

「Try Out!」をさせるという先生の言葉がとても心に響いた。ミスをしなが、エラーをしなが習得していく英語。どのように子どもが中学校で英語を学べばいいのか(教えればいいのか)がわかり、興味深かった。小学校で、外国語活動だけでなく、他教科でも生かせる内容がたくさんあった。

個人的には、「発話の意図」(なぜその質問をしたのか?)など、おもしろい視点で読むと、その背景にあるものを自分なりに考え、「読むこと」自体が遙かにおもしろくなった。Imagine (入り込む)も同様。「使う」ことが大切ということも改めてよくわかったので、自分自身も外国語活動においてもっと使いたいし、使う活動を仕組んでいきたい。
(大牟田市立小学校)

特に、concept map の概念について知ることができて、よかったです。本文の取り扱いや内容を深めることについて、悩んでいたもので、2学期からチャレンジしてみたいと思いました。今年、自分は、「自己表現をすることを通しての基礎基本の定着」を目標にしているので、今日のお話しはとても有用でやってみたいと思いました。

「Try Out」という言葉も普段の授業の中で使っていきたいです。「表現の評価」について自分はわかっていなかったで、「表現の質を高める」ことについても悩んでいました。それを解決するための一つの大きな手立てが見えた気がしてうれしかったです。自分自身の意欲が高まりました。
(筑後市立中学校)

小学校における学習指導にも関係があることが多かった。小学校での feedback をいうと、1時間の最後(まとめ)だけに着目するが、子ども達の活動の中でも、細かな feedback を行っていることに気付いた。小学校でも Recasts をしているし、自分が注意を払っていないと、気がせず、スルーしてしまうのは同じだと思った。

また、自分の英語の習得レベルと比較して聞くこともできた。まだまだ学ばなければと思った。
(教育センター小学校)



大学の時に、recast について卒論を書いたことがあるくらい feedback に関心を持っていたので、今日の話はとても興味深く聞くことができました。Feedback に関してたくさん学んできたはずなのに、授業で生かされていないことを先生のお話しを聞いて感じ、反省しました。2学期からは、是非実践していこうと思います。
(大牟田市立中学校)

feedback の種類と方法、また効果について具体的に教えていただき、大変勉強になりました。実際に、生徒への声かけについて考え、普段の授業での自分の生徒への接し方について、良い点、改善すべき点、確認することができ、大変有意義な時間となりました。学習過程途中の生徒に対して、どんな力を身に付けさせたいのか意識し、あたたかく接していきたいと思います。
(みやま市立中学校)

素晴らしい研修でした。今まで、そのような視点で見たり考えたりしていなかった、意識していなかったで、目からウロコの状態でした。特に、習得しづらい文法事項の順番については興味深かったです。3年生に対して、「まだ三単元現の s が習得できてないの？」という言葉は絶対に言えないものだと思感しました。corrective feedback をして、再度使用する機会を提示して・・・この繰り返しが大事だと思いました。
(広川町立中学校)

太田先生から著書発行

